

サービスロボット事業化交流会 事業紹介

2018年5月29日

サービスロボット事業化交流会

1. ロボット事業化マッチング
 1. サービスロボット利用希望企業の相談受付
 2. 利用要件の確認と必要となるロボットの機能のまとめ
 3. ロボット提案の募集
2. 交流会会員向け研修プログラム（有料）
 1. 自律移動ソフトの開発
 2. 案内ロボット用N I C T音声認識会話エンジンの利用とコンテンツ開発
3. 東京ロボット産業支援プラザ施設の活用
4. 共同研究開発ロボットの紹介と横展開
5. 会員Webディレクトリー
6. サービスロボット・システムインテグレーターの育成
7. 共同研究開発ロボットの追加実証実験
8. 全体会議の開催

サービスロボット事業化交流会

• 目的

- 企業が必要とするロボットの要件を満たすロボットを実現することにより、ロボット事業を立ち上げる。
- 各種の用途に対応するロボットを広く紹介することにより、ロボット利用を希望するユーザー企業を増やし、ロボット市場を広げていく。
- 大企業を含むユーザー企業に、中小企業とともにサービスロボット利用を提案する企業（サービスロボット・システムインテグレーター）を発掘、育成する。
- 2020年事業終了後も、中小企業が参画しながら、ロボット事業が継続的自律的に拡張していくECO SYSTEM実現をめざす。

サービスロボット事業化交流会

1.ロボット事業化マッチング

- 都産技研が、ロボット利用希望を持つ企業からの問い合わせ、相談を受け付けます。
- 利用を希望する企業の要件を、都産技研が相談を通じまとめ、製造、開発する企業を募集して紹介します。
- 必要に応じ複数の（中小）企業がまとまって1件の要望に対応できるようにするため、システム・インテグレーターとの組み合わせの実現も支援します。

2.交流会会員向け研修プログラム（有料）

- 都産技研が、会員向けにロボット開発導入に必要なとなるソフトウェア、コンテンツの研修コースを開催します。（実費を負担いただきます。）
 - 自律移動ソフトウェアの開発
 - レーザーレンジセンサーを使用したSLAM作成
 - 実際のロボットを使用したワークショップ
 - 案内ロボット用コンテンツ開発
 - NICT多言語音声認識会話エンジンの利用
 - 画面連携コンテンツ、シナリオの開発

サービスロボット事業化交流会

3.東京ロボット産業支援プラザ施設の活用

- 東京ロボット産業支援プラザの機器、施設の活用によるサービスロボットの性能、品質の向上
- 会員向け利用相談実施

4.公募型共同研究開発ロボットの紹介と

横展開

- 現在までに都産技研が公募型共同研究で開発したロボットと開発企業を、展示会、交流会、HPなどで紹介し、他のユーザー候補にも活用を検討していただきます。
- 新規ユーザーが使用するにあたって、改良、改造が必要な場合、必要に応じ開発企業と協働して担当する企業を募集いたします。

サービスロボット事業化交流会

5.会員Webディレクトリー

- サービスロボット事業化交流会の会員ディレクトリーを準備し、企業間の交流を促します。

6.サービスロボット・システム

インテグレーターの育成（案）

- 実際のサービスロボットの導入プロジェクトの運営を経験しながら、システムインテグレーターとして必要なスキル、経験を得られるような機会を提供いたします。

7.共同研究開発ロボットの追加実証実験（案）

- 共同研究開発したサービスロボットの事業化の際に、追加で必要となる実証実験の実施を支援致します。

8.全体会議の開催

- 年2－3回程度交流会の全体会議を開催し、会員のロボットや技術、利用要望の紹介を行い、会員間でのロボット利用の普及を図る。
- 次回10月開催を予定
（ロボットウィーク期間 10/17-19）